



NPO 法人 「現認証者数 207 人」

茨城県防災士会だより

発行日 平成 29 年 4 月吉日

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士会

責任者 広報・機関紙部長

加瀬孝雄

1. 平成 29 年度 NPO 法人茨城県防災士通常総会の開催

この度、平成 29 年度の総会が茨城県総合福祉会館において平成 28 年度の事業報告、収支決算及び同 29 年度の事業計画、活動予算案が議決採択された。平成 28 年度の活動を踏まえ

(1) 平成 29 年度の活動重点は、福島新理事長から

ア 地区防災計画の推進

平成 26 年 3 月に発表された「地区防災計画ガイドライン」踏まえ、県内 6 エリアで、「防災協同社会の実現」を図る。

イ 認定講師制度のさらなる向上

多様化する依頼に選任講師を中心に対応できる講師陣の充実を図る。

ウ 当法人会員不在の市町村ゼロを!

防災士の市町村会員不在ゼロを目指し、人脈、講習会、打合せ等を通じて取り組む。等の基本方針が示された。

(2) 法人人事(理事等)について

新体制の法人人事(理事等)は、理事長に福島末輝、副理事長 阿久津聡、益子さや子専務理事に、鈴木勇、井上亮二、理事には、加瀬孝雄、横田信子、野村彰、田中寿、安東正義、監事には磯野義久、齋藤理吉等が任用・再任された。退任には、中村隆副理事長黒田一雄専務理事、西村正夫理事長が承認された。その他人事は、総会時配布済み。



平成 29 年度 NPO 法人茨城県防災士通常総会

2. 「日本防災士会と共催の地区防災計画 DIG 研修」の開催

平成 29 年 1 月 28 日(土)、水戸市内茨城県総合福祉会館において、日本防災士会本部橋本茂常務理事から「地区防災計画の推進について」の概要説明が行われた。その後、内閣府防災担当策定のガイドラインに沿った地区防災計画 DIG 研修を行った。同研修会は、「町の特性と被害想定、災害対応」・・・最優先課題を明確化、大規模災害時の緊急措置、自主防災組織体制、非常時の対応等」について訓練実施グループを編成し、各班の討議を行った。

日本防災士会本部からは、「糸魚川市の大火」の視察結果の報告がされ、大規模火災の惨禍の厳しさを改めて認識させられたとの感想が寄せられた。

日本防災士会では、地区防災計画制度に積極的な参画を表明。昨年、防災士会本部に「地区防災計画推進局」を、各県支部に「モデル地区」を設置した。この制度への取り組みを日本防災士会の主要活動の柱と位置づけ、積極的にその推進を図ることとしている。

NPO 法人茨城県防災士会は、日本防災士会と共催の形で西村理事長以下防災士 64 名が初めての「地区防災計画」の策定にチャレンジした。参加者から、地区の人材や事業所等との連携方法、緊急時の多様な模擬体験を積むことができ好評であった。



「地区防災計画 DIG 研修」



3 日本防災士会主催の地区防災計画推進大会に茨城県代表が事例発表

平成 29 年 3 月 14 日(火)東京都四谷「四谷主婦会館」において、全国から 132 人の防災士が「地区防災計画推進大会」に出席、本県からは益子さや子専務理事以下 9 名が出席した。日本防災士会浦野理事長の「風水害、大規模地震等の自然災害を止めることはできないが、被害を少しでも軽減するために最善を尽くしたい」等の挨拶があった。次

に来賓挨拶として、内閣府政策統括官(防災担当) 児玉 克敏企画官から「地域の自然環境、災害の歴史、社会インフラ等の実態を把握すると共に、官公庁、事業所との連携、人材の活用を図るなどし、地区実態に沿った防災計画の策定」を期待したい。また、基調講演では、地区防災計画学会会長 室崎益輝 神戸大学名誉教授から「地区防災計画のめざすもの～地域防災力の向上へ向けて～」の講演が行われた。



防災計画策定のポイント・活用の説明

日本防災士会 松尾副理事長は、地区防災計画の推進に向けてと題し、

○会員は、地域の防災活動に参画し、地域の防災活動計画の策定、実施等に関し指導的役割を果たす。

○スキルアップを通じて、レベルアップを図る。

○自治体との緊密連携を図り、防災協働社会(防災コミュニティ)の実現に寄与する。等の活動理念の具体的な指示のほか、空中戦(DIG/HUG 等)、地上戦(コミュニティに入り活動の展開を図る)ことを力説された。次に活動発表では、新潟県支部、山口県支部、**茨城県支部**が事例の発表となった。

茨城県支部は加瀬孝雄理事が「7年前に小学校単位の地区防災組織の立上げ」に関わったこと。2年前に事業所と連携、地区スポーツ組織、有資格者の人材活用で防災組織(400 世帯)を結成、防災計画の策定、これを基本ベースに 6,000 世帯の吉田地区防災連合会においても防災計画を策定した経緯、作成のポイント、今後の活用等について事例の発表の機会を得た。

4、茨城県立結城特別支援学校で避難所開設マニュアル、訓練への指導・助言



学校における防災訓練

平成 29 年 1 月 20(金)茨城県立結城特別支援学校において、本年度、最後の防災訓練を実施した。訓練では、避難所に訪れる避難者を一般避難所・福祉避難所に案内する際、障害者と介添え者が受付において、身体障害者、精神疾患等の程度に応じ、トリアージを行い、誘導する寸劇の形態で 15 人が迫力のある演技を行った。避難訓練は実態に即した、内容の濃いものとなり、出席者を魅了した。その他の訓練では、段ボールの間仕切りの有効性の確認、炊き出し訓練等を行った。

5 取手市立藤代南中学校の防災訓練



水害時のハザードマップ活用し訓練

平成 29 年 2 月 27 日(月)取手市中田地内「取手市立南中学校」において、「災害時の備え」の演目で講演。取手市水害の歴史、市作成のハザードマップを活用し、小貝川・利根川に囲まれた水系にある地域の避難所、避難場所への避難方法、大規模地震の避難要領等の違いについて説明し、家族で増水した際の対応など話題としてとりあげ、「尊い命」を守れるか話し合うことを伝えた。DVD では、「水の怖さを知りました。」との感想が寄せられた。

6. 地元企業と自主防災組織が小学校で小型消防ポンプ使用の防災訓練～茨城新聞・読売新聞掲載～

平成 29 年 2 月 17 日(金)水戸市立吉田小学校で自主防災組織(吉田地区防災連合会)は、水戸市役所、同市消防、第 8 分団、茨城県防災士会、水戸地区救急普及協会、婦人防火クラブ等と連携し、「安否確認、要配慮者救出・搬送、AED の操作、応急手当、非常食炊出し実技、段ボールベット工作・体験などの訓練を実施した。生徒 150 人、一般参加者、関係者で計 250 人が参加。

「企業の所有する可搬式の小型消防ポンプの放水では、企業から 5 名が参加し、生徒に筒先の圧力を体験させるなど、貴重な経験を行った。

初めての行事となり「貴重な体験ができた」ことに教頭先生より、感謝の言葉を頂いた。



可搬式小型消防ポンプの活用訓練

(吉田防災連合会組織で、加瀬防災士は副会長の立場で会長へのアドバイザー的な存在)

7. 各種講演会・研修会の実施（28.10.1～28.12.31）

(1) 日本防災士会・茨城県防災士会の共催研修

講 演 内 容	開 催 場 所	研 修 者
地区防災計画 DIG 研修 1/28	茨城県福祉総合会館	県央エリア・渡辺平以下 8、県北・井上亮二以下 5、県南央・福島末輝以下 9、県南東・野口正弘以下 8、県南・中村義徳以下 3、県西・矢野靖彦以下 2 で計 35 人・栃木県、群馬県等他県参加者で 29 名・合計 64 名が参加

(2) 日本防災士会主催の「地区防災計画推進大会」

講 演 内 容	開 催 場 所	研 修 者
日本防災士会主催の 地区防災計画推進大会 3/14	東京都四谷「四谷主婦会館」	西村正夫、中村隆、益子さや子、鈴木勇、横田信子、志村謙一、齋藤理恵、永倉喜代加瀬孝雄（事例発表者）

(3) 学校関係

1 前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。（敬称略、順不同）

講 演 内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
地震、火災時における身を守る方法 1/12	八千代町立第一中学校	鈴木勇、安東正好、
もし地震が起きたらどうする 1/13	小美玉市立下吉影小学校	野村彰、藤城允英、中崎智雄、西村正夫 中村隆、黒田一雄、
防災訓練への助言と指導 1/20	県立結城特別支援学校	安東正好、西村正夫、
避難所の開設と運営 1/20	結城市立結城西小学校	鈴木勇
学校や地域と連携した防災体制づくりによる課題 1/27	県立水戸飯富特別支援学校	加瀬孝雄、大高仁護
体育館が避難所となった場合の運営 2/3	結城市立城南小学校	鈴木勇
地震から身を守る 2/23	城里町立石塚小学校	西村正夫
災害時自分たちができること 2/27	取手市藤代南中学校	中村義徳、永倉喜代
避難所を運営するために 3/6	城里町立石塚小学校	西村正夫

(4) 自治会、自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた防災講演は以下の通りである。（敬称略、順不同）

講 演 内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
女性目線から見た自主防災組織に於ける女性の役割 1/17	県防災危機管理課	齋藤理恵、西村正夫、益子さや子
災害発生時、住民同士での救護活動について 1/21	つくば市桜ニュータウン自治会	福島末輝、鈴木勇
女性目線から見た自主防災組織に於ける女性の役割 2/2	県防災危機管理課	齋藤理恵、西村正夫
女性防災士から見た災害の備え 2/9	常陸太田市ライオンズクラブ FWT委員会	柴田美智子、益子さや子、吉澤一治
自分の身を守る防災体験訓練 2/17	吉田地区防災連合会	加瀬孝雄、渡辺平、大内洋治、横田信子

災害時における自助、共助について 2/27	東海村自治会連合会	大内洋治、加瀬孝雄
--------------------------	-----------	-----------

(5) 学校防災推進委員会等の避難所開設訓練

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	対象団体名	講師等
HUG 図上訓練 1/20	北茨城市社会福祉協議会	小川欽也、益子さや子、柴田美智子、海野定文、高矢芳幸
HUG 図上訓練 「災害ボランティア研修」 1/25	常陸太田市社会福祉協議会	柴田美智子、小川欽也、益子さや子、海野定文、櫛田英、皆川雅明、人見克彦、小室太

※研修会・講習会出席者調査(報告のあったもの) 広報・機関紙部副部長 小池寛:写真提供 広報部・藤城防災士

☆ 女性防災士紹介

防災士としての活動

龍ヶ崎2ブロック 齋藤 恵理防災士

私は、2015年のいばらき防災大学を受験して防災士の資格を取得しました。昨年、地域の自主防災会に防災士として入会させていただきました。38名の会員の中で女性会員は、私を含めて6名です。今まで女性会員として主だった活動はありませんでしたが、今年度から自主防災会女性部として活動していきたいです。防災士として学んだことを分かち合い個々の防災力と意識の向上に努め、自主防災会の働きに女性目線で関わっていきたいです。

◎参考資料の紹介「南海トラフ地震」

著書 名古屋大学大学院環境学研究科教授 山岡耕春 地震予知連絡会副会長

宿命の巨大地震・・・一刻一刻と近づく、必ず起こる、南海トラフ地震、その日・・・何が起きるか、どう備えるか。

第一人者が語る。岩波新書 780円 防災士にとって必見の書

◎市町村の防災担当課の皆様へ

NPO 法人茨城県防災士会では、各種防災講演会や研修会の講師、DIG(災害図上訓練)や HUG(避難所運営ゲーム)、防災マップづくりなどの指導を行っております。

講師をお探しの場合は、下記までご連絡下さい。

窓口:鈴木 勇(役職 専務理事(兼)企画・研修部長) TEL0296-32-3712(自宅・FAX 兼用)

連絡先:〒300-0001 結城市結城11973-8 メールアドレス: disaster-house@cc9.ne.jp

◎今後のイベント案内

1. 平成29年度・茨城県生活環境部 防災・危機管理局 防災・危機管理課の主催で地域の「防災リーダー」を育成する目的で下記の日程・場所で研修を行う。

◎第1回 日時 平成29年6月20日(火)13:00~16:00 龍ヶ崎文化会館

◎第2回 日時 平成29年7月4日(火)13:00~16:00 常陸大宮文化センター

会員の皆様へお願い ;

「関東・東北豪雨による鬼怒川決壊に思うこと」や「東日本大地震のボランティア活動体験記等」を会員皆さんに募集しています。原稿は、400~500字程度でお願いします。

・送付先 : 〒310-0844 水戸市住吉町15-3 加瀬 孝雄 宛

・E メールアドレス: abcd25621@yahoo.co.jp ・Tel : 029-248-1097. 携帯 090 2202 5737